

タイ語における限定表現「tɛɛ」の意味・用法に関する考察

モンコンチャイ アッカラチャイ
(東京外国語大学大学院博士後期課程)

要 旨

本研究は、タイ語において限定の意味を表す「tɛɛ」の意味・用法を分析することを目的とする。実際のデータ（実例）¹を参考にしながら、「tɛɛ」が用いられる文脈で特徴的なものについても明らかにする。分析にあたっては、日本語の限定の意味を表すとりたて助詞「だけ」「しか」「ばかり」を視野に入れながら、考察を行うこととする。

1. はじめに

本研究は、タイ語において限定の意味を表す「tɛɛ」の意味・用法を分析することを目的とする。タイ語の大規模コーパスを参考に、¹「tɛɛ」が用いられる際の文脈の特徴についても明らかにする。分析にあたっては、日本語の限定の意味を表すとりたて助詞「だけ」「しか」「ばかり」を視野に入れながら、考察を行うこととする。

「tɛɛ」には、逆接を表す接続詞、起点を表す前置詞、限定など様々な用法がある。以下にそれぞれの「tɛɛ」の用法を示す。

- (1) [?]aahānthai phèt tɛɛ [?]aròy
タイ料理 辛い 逆接 おいしい
(タイ料理は辛いが, おいしい。)

- (2) kháw chòp kin [?]aahānthai maa tɛɛ dèk
彼 よく 食べる タイ料理 来る 起点 子供
(彼は小さい時からよくタイ料理を食べている。)

¹ Thai National Corpus (以下、TNC コーパスとする) を利用する。TNC コーパスは、タイにおける唯一の大規模コーパスで、2007年に作成されたものである。このコーパスには新聞、雑誌、論文などの主に出版物として刊行された現代タイ語の書き言葉が収録されている。さらに、手紙や作文や日記などといった未刊行のものから5～10%、ウェブサイト上の記事から5%が収録されている。

(3) *khen kin tɛɛ² aahǎanthai*

ケン 食べる 限定 タイ料理

(ケン²はタイ料理だけ/ばかり食べた。/ケン²はタイ料理しか食べなかった)

本稿では、(3)のような限定表現という用法のみ分の析対象として扱うことにする。この場合の「*tɛɛ*」は、以下の(4)と(5)に示すように、「動詞+*tɛɛ*+名詞」および「動詞1+*tɛɛ*+動詞2」という2つの形で用いられる²。分析の対象となるタイ語の限定表現「*tɛɛ*」に下線を付して示す。

(4) *mûacháawní maaná² kin tɛɛ² khanǒmpaŋ*

今朝 マーナ 食べる 限定 パン

(今朝マーナはパンだけ/ばかり食べた。/今朝マーナはパンしか食べなかった。)

(5) *maaná² dâi tɛɛ² moŋ phûan kin khanǒmpaŋ*

マーナ できる 限定 見る 友達 食べる パン

(マーナは友達がパンを食べているのを見ることしかできない。)

これまで「*tɛɛ*」については、タイ語研究においてはほとんど研究対象として扱われておらず、特にそれが用いられる際の前後の文脈を視野に入れ、それが具体的にどのような状況において用いられるかを詳細に分析した研究は見られない。そこで、本稿ではタイ語の限定表現「*tɛɛ*」がどのような意味を表すか、またそれがどのように使用されるかについて、前後の文脈を考慮して分析を試みる。

本稿におけるタイ語のアルファベット転写およびグロスの特筆しない限り、筆者によるものである。なお、タイ語アルファベット転写についてはIPA(国際音声記号, International Phonetic Alphabet)表記にしたがった。

2. 先行研究の記述の検討

Iwasaki & Ingkaphirom (2005)は現代タイ語の文法についてその全体像を記述したもののだが、限定の意味を表す表現「*tɛɛ*」に関する記述は特になされていない。ただし、「*tɛɛ*」の意味と類似している表現「*khɛɛ*」と「*phiaŋ*」についての記述があり、以下にその記述をまとめて示す。

「*khɛɛ*」と「*phiaŋ*」は数量修飾語の中の pre-numeral (数詞の前に置かれる数量修飾語)として扱われている。しかし、意味的な観点からの考察は行われておらず、類義関係にあ

² この2つの形以外に、同じく限定の意味を表す「*tháwnán*」, 「*diaw*」という形式と共起すること、及び「*phiaŋtɛɛ*」, 「*tɛɛphiaŋ*」, という複合体として現れる場合もあるが、本稿においてはまず「*tɛɛ*」が単独で用いられる場合を対象として分析を行う。「*tɛɛ*」が「*tháwnán*」, 「*diaw*」という他の限定表現と共起した場合については、次の分析課題としたい。

る両者の違いについては、単に英訳を付して「“khêe” (just)の方が“phiaŋ” (only)より強調し主観的である」(p. 63 日本語訳は引用者)と述べられているだけである。「tèe」については全く言及されていない。

一方、Surarungsikul (2008) は、タイ語に訳された日本の文学作品 10 作品とタイの雑誌に掲載されたタイ語の小説 15 作品から用例を収集し、「だけ」「しか」「ばかり」という日本語の限定を表すとりたて助詞と、「khêe」, 「phiaŋ」, 「tèe」³ というタイ語の限定表現の意味・用法との対照研究を行っている。ここでは、Surarungsikul (2008) によって分析されたタイ語の限定表現の「tèe」について分析した部分を取り上げ、検討する。

Surarungsikul (2008) では、タイ語の限定表現「tèe」の意味・用法を次の a～d. のように 4 つに分類している。(以下の a～d. の日本語訳はすべて本稿の筆者によるものである。)

(6) Surarungsikul (2008: 24-25) による「tèe」の意味・用法のまとめ

- a. 限定の意味を表す語の後に続いて示される物事・出来事・事実を限定し、他の要素を否定する。「これ以上はない」という意味を表す。

例. ...ที่พอจะเรียกตัวเองว่าผับหรือบาร์ได้อย่างเต็มภาคภูมิ เห็นจะมีก็แต่ร้านที่เปิดในตึกแถวสองชั้นกึ่งคอนกรีตกึ่งไม้เท่านั้น

(はっきりとパブあるいはバーと呼べるのは、半コンクリート半木材でできたこの二階建てのビルの中に入っている店だけのようである。)

- b. 限られた行為が繰り返し・しばしば・継続的に行われるという意味を表す。

例. หยาดน้ำซึ่งกลั่นจากความเคียดแค้น...เก็บกต...พรั่งพรูอาบแถม ทำไมพ้อถึงเอาแต่ดำ ๆ ๆ ไม่ถามไถ่สารทุกข์สุขดิบสักคำ

(怒り恨みや抑えていた感情からくる涙がとめどなく頬をつたった。どうしてお父さんは叱ってばかりで暮らしの苦楽を何も訊いてくれないのかしら。)

- c. 「限られた物事・出来事・限られたものばかり～」という意味を表す。限られた物事・出来事・同種類の物についての数は問題にしない。

例. เหมือนกับรถราตามถนนจะแก้งเขาอย่างนั้นละ เพราะตึกขนาดนี้แล้วการจราจรยังคงแน่นขนัดมากเสียจนแต่ก็เขานั่งกลับวังเทวินทร์นั้นติดแน่นขยับไปข้างหน้าได้ทีละน้อยรอบกายมีแต่รถ รถ และรถเต็มไปหมดเหมือนกับลานจอดรถขนาดใหญ่

(路上の車がまるで彼をいじめているかのようである。こんな夜更けになってもテーウィン宮殿へ帰るタクシーが少ししか前に進めないくらいに混んでいる。周りはただ車ばかりでまるで駐車場のように車が溢れている。)

³ Surarungsikul (2008) では、「v+tèe」という形で記述されているが、「v+tèe」のみを他の限定表現と異なるこのような形で示す理由は明確に述べられていない。本研究では他の限定表現と同じように「tèe」という形に揃えて示す。ただし、限定表現として用いる際、「tèe」が常に「v+tèe」という形をとるのは確かである。

d. これからどうすれば良いかわからない・他の方法がない・予想しなかったことにあったため、限定された動詞を表す行為を行うしかないという意味を表す。

例. จากนั้น การเวกที่เหลือก็ถูกรุมเข้าทำร้ายเหยื่อที่ล้มลงไปนอนกับพื้นอย่างรวดเร็วราวกับฝูงหมาป่าถูกรุมเข้าขย้ำลูกแกะ โดยชายอีกสองคนที่เหลือได้แต่ตกตะลึงจ้องมองดูโดยมีอาจช่วยอะไรได้

(それから、残りの鳥もまるでオオカミが羊に襲いかかるように倒れた餌食に一齐に素早く飛び付いた。残った男二人はただ驚くだけで何も助けることができなかった。)

このように、Surarungsikul (2008) の論考はタイ語の限定表現について詳細に考察を行っている唯一の研究ではあるが、前後の文脈を考慮し「tɛɛ」がもつ統語的特徴についてあまり触れていない。また、それぞれの意味・用法については、ただそれに相当する用例が挙げられているだけに止まっており、各意味・用法に見られる特徴的な文脈の違いについても言及されていない。さらに、上記の6 (b) では、「限られた行為が繰り返し・しばしば・継続的に行われる」という意味を表す。」と記述されているが、「繰り返し (反復性)」と「継続的 (持続性)」が表す事象、またそれぞれがもつ統語的特徴も異なるのではないかと思われる。そのため、この2つ概念をまとめて分析するのは不適切であり、「反復性」と「持続性」に分けて分析を行なう必要がある。

以下は「tɛɛ」の「反復性」および「持続性」を表す例を示す。

(7) kháw {aw/mua} tɛɛ kin lâw
彼 要る 夢中 限定 飲む 酒
(彼はお酒を飲んでばかりいる。)

(7) の場合は、「aw」(要る)⁴ または「mua」(夢中) どちらも用いることが可能である。「彼はよくお酒を飲んでいる」(反復性) という解釈ができるし、「彼は(その時) ずっとお酒を飲んでいる」(持続性) という意味で捉えることもできる。しかし、以下の(8) (9) のように、後ろに文脈を付け加えることにより、両者の違いが見えてきた。

(8) kháw {aw/*mua} tɛɛ kin lâw rǎaŋkaay lǎy sútsoom
彼 要る 夢中 限定 飲む 酒 体 だから 衰弱する
(彼はお酒を飲んでばかりいるため、体が衰弱している。)

(9) kháw {aw/mua} tɛɛ kin lâw lǎy mǎwŋ mâi hǎn [?]aacaan
彼 要る 夢中 限定 飲む 酒 だから 見る 否定 見える 先生
(彼はお酒を飲むことに夢中になっていたため、先生に気付かなかった。)

⁴ タイ語の「aw」の対象的な意味は日本語の「要る」と「取る」に相当する。しかし、「aw + tɛɛ + 動詞2」という構造において用いられる場合は、「aw」は本動詞ではなく、「よく～する」という意味を表す助動詞のようなふるまいをしているのである。

(8) の場合は、彼がお酒を飲むということを繰り返し行っていることにより、その結果として今体が衰弱しているという状態を表すという解釈ができる。つまり、(8) で用いられる「tèe」は反復性を表す例になるのである。それに対し、(9) の場合は、彼はお酒を飲むという行為を行い、それに夢中になってしまった。それで、その行為を行っている途中で先生が彼のところにやってきたが、彼は気付かなかったということを表すと解釈できる。つまり、(9) の場合は、反復性と捉えることが不可能であり、持続性としての「tèe」と捉えるべきだと思われるのである。

3. 「tèe」の意味・用法およびその文脈

ここでは「tèe」の意味・用法を、その統語的特徴とともにそれが用いられる特徴的な文脈を視野に入れて分析する。「tèe」は、文脈の特徴という観点から「唯一の方法」、「動作の反復性」、「動作の持続性」、「多数性」、そして「限定」の5用法に分けられる。以下、それらを順に記述していく。

3.1. 唯一の方法

意味：Xに限ってPである。Xという行為以外に他の方法がない。

統語的特徴：動詞 1 (dái) + tèe + 動詞 (句) 2

- (10) maaná[?] dái tèe yuum [?]úŋ tham arai mái thùuk
マーナ 可能 限定 立つ 驚く やる 何 否定 正しい
(マーナは何もできず、動かずに立っていることしかできない。)

(10) については、「X=動かずに立っている」という方法のみ「P=できる」であり、Xという方法以外に他の方法がないため、そうするしかないということを表す。

この意味・用法は、「tèe」の前後に動詞のみ位置するという統語的な特徴がある。つまり、唯一の方法を表す「tèe」は「動詞 1 + tèe + 動詞 2」という形でのみ示すことが可能である。

以下は TNC コーパスから収集した用例の一部を示す。

- (11) ชายหนุ่มก็สนใจ ได้แต่หวังว่าสาวไทยจะสัมผัสได้ถึงความห่วงใยเหลือล้นของเขา [PRNV002]⁵
(青年は諦めた。タイの女性が彼が非常に心配しているということを感じてくれるのを願うしかない。)

- (12) ชุ่นเข้าใจแล้วว่าแข่งเจ็บปวดแค่ไหน แต่ในเมื่อไม่มีทางทำอะไร ได้ก็ได้แต่พึ่งวิญญาณบรรพบุรุษ [PRNV017]
(チュンはチュンがいかに苦んでいるかもうわかった。しかし、他の道はないので、祖先にうったえるしかない。)

⁵ 各例文の日本語訳末尾の記号は用例の引用先である Thai National Corpus (TNC コーパス) の ID 番号である。

- (13) แล้วใครจะกลับไปส่ายหน้าปฏิเสธตอนที่อาจารย์แกเอ่ยถามว่า “เข้าใจรึยัง” ออกมาละ ฉันก็เลยได้แต่พยักหน้าหงึกหงักแบบขอไปทีลูกเดียว [PRNV066]
 (「わかった?」と先生に聞かれた時、誰かが勇気をもって否定する人はいないだろう。だから、私はうんうんと頷くことしかできなかったのだ。)

また、「動詞 1」は、可能を表す動詞「dái」でなければいけないということが観察できる。「dái」の他に「pen」や「wǎi」などという可能を表す動詞があるが、「dái」の代わりにこれを用いると、非文になる。

- (14) a. *maaná[?] pen tèe yuun[?] ʔúŋ tham arai mâi thùuk
 マーナ 可能 限定 立つ 驚く やる 何 否定 正しい
 b. *maaná[?] wǎi tèe yuun[?] ʔúŋ tham arai mâi thùuk
 マーナ 可能 限定 立つ 驚く やる 何 否定 正しい

また、この「tèe」の場合については、話者はXの示す行為はあまり望ましいものではないととらえている。そのため、評価性の点から言えば、この意味・用法はマイナスの評価のみを表すことができる。

3.2. 反復性

意味：Xに限ってPである。Xという行為に限って数回行われる。

統語的特徴：動詞 1 (aw, khooj など) + tèe + 動詞 2 (句)

- (15) maaná[?] aw tèe khít rúan rian
 マーナ 要る 限定 考える 事 勉強
 (マーナは勉強のことを考えてばかりいる。)

(15) は動作の反復性を表す「tèe」の例である。この場合、「X = 勉強のことを考える」という行為に限って数回「P = 行う」ということを表す。

この意味・用法には、「tèe」の後に置かれる要素は4.1と同様に動詞でなければならないという統語的な特徴がある。また、「tèe」の前に位置する動詞(動詞 1)の性格について、TNC コーパスから収集した用例から見ると、「tèe」を用いて動作の反復性を表す文は、動詞 1 が「aw」(要る)、「rɔɔ」(待つ)、「fâw」(待機する)、「khooj」(待つ)、「mii」(ある)などといった時間の幅があるものがほとんどである。

以下の用例は、TNC コーパスから収集したものである。

- (16) มีบางทบประตุดิดๆ กันอย่างแรง ขณะที่ปากก็คอยแต่ตะโกนเรียกให้เขาออกมา [PRNV091]
 (バンは彼が出てくるように大きい声で出しながら、手で続けざまにドアを強く叩いてばかりいる。)

- (17) ระดับซีเดย์นะเธอจะออกหักเป็นสิบๆ ครั้ง คงมีแต่หักอกคนอื่นซะละมากกว่า [PRNV094]
 (シーデーが十何回かふられたなんてありえない。むしろふってばかりいるんじゃない。)
- (18) เพื่อน ๆ มันชอบล้อผมว่านักฝันร้ายวัน คือเอาแต่ฝัน ไม่ยอมลงมือซะที [MG127]
 (私は友達に夢見る者といつもからかわれている。それは夢を描いてばかりいて何も始めようとしなないという意味だ。)

この場合、話者は数回行われる行為 X は通常考えられる頻度や期間を超えており、好ましいものではないととらえている。このように、評価性の点から見れば、4.1 で示した「唯一の方法」と同様にマイナスの評価を表すと言える。

3.3. 持続性

意味：X に限って P である。X という行為に限って継続的に行われる。

統語的特徴：動詞 1 (mua など) + tɛɛ + 動詞 2 (句)

- (19) maaná² mua tɛɛ kin khanǒmpaŋ
 マーナ 夢中 限定 食べる パン
 (マーナはパンを食べることばかりに夢中になっている。)

(19) は動作の持続性を表す例であり、「X=パンを食べる」という行為に限って継続的に「P=夢中だ」ということを表す。動作の持続性を表す文では、「mua」(夢中になる)のみ用いられることが観察される。

この「持続性」は、4.2 の「反復性」と異なり、限定された事態が数回行われているのではなく、継続的に行われるのである。また、その事態が継続的に行なわれているため、何らかの望ましくない結果が導かれるという特徴的な文脈が観察される。

- (20) เขามัวแต่จัดการเก็บกล่อง ส่งภาพจากเมมโมรี่เข้าโน้ตบุ้ค แล้วหันไปง่วนหยิบข้าวของโดยไม่
 หันได้ มองว่าในห้องก็มีคน [PRNV087]
 (彼はメモリーからノートパソコンに写真を入れ、いろいろな荷物を片付けることばかりに夢中になっているため、部屋に人がいるのに気付かなかった。)
- (21) นี่ย่ำมัวแต่ยุ่งเรื่องคนอื่นเลย กรุณาตอบคำถามฉันด้วย ปอกระด้ง [PRNV090]
 (「ねえ、人のことを気にしてばかりいる場合じゃないよ。私の質問に答えてください。」とポーは言った。)

3.4. 多数性

意味：Xに限ってPである。Xという同種類のモノ・コトが多いと話者がとらえている。
統語的な特徴：動詞 I + tɛɛ + 名詞 (句)

(22) bon tó[?] lúia tɛɛ khaŋmpaŋ tempaimòt
上 机 残る 限定 パン 沢山
(机の上にパンばかり残っている。)

(23) nai húa khǒŋ maaná[?] mii tɛɛ rúiaŋ rian tháŋnán
中 頭 の マーナ ある 限定 事 勉強 全て
(マーナの頭の中にあるのは勉強のことばかりだ。)

(22) では、「tɛɛ」に後続する名詞はモノを表す名詞である。それに対し、(23) では「tɛɛ」に後続する名詞はコトを表す名詞が観察される。(22) については、「X=パン」という同種類の物に限って「P=ある」ということを表す。その同種類の物が多いと話者はとらえている。また、(23) については「X=勉強のこと」が頭の中にたくさん「P=ある」ということを表す。

以下の(24)～(26)はTNCコーパスより収集した用例を示す。

(24) ภายในเรือดูเหมือนจะมีแต่แรงงานเพศชายทั้งหมด [PRNV062]
(船の中には全員男性の労働者ばかりのようだ。)

(25) ไม่ว่าจะเป็ปลาเก๋าสดพริก ปลากระพงทอดรตน้ำปลา ปลาฝั่งมะนาว ปลาสาสีเผาและต้มโคล้งปลาช่อน เอ๊ะทำไมคุณสั่งแต่ปลาทั้งนั้นเลยละคะ [PRNV090]
(魚カレー辛炒め物、ナンプラーがけ揚げ魚、ライム蒸し魚、塩焼魚、そしてピリ辛魚スープ あれ! なんでほとんど全部魚メニューばかり頼んだのですか。)

(26) ไม่มีเด็กสาวๆ เลย มีแต่แก่แรดทั้งนั้น แต่งหน้าแต่งตากันดูน่าขบออกมามากกว่าจะอยากเข้าใกล้ [NACHM071]
(若い女性が全然いない。ほとんどばばあばかりで、近づきたいよりむしろ離れていきたい化粧をしている。)

「tɛɛ」における多数性の意味・用法については、収集した用例の中で、7例しか見られず最も少ないため、文脈の特徴をまとめることが難しい。ただし、「tɛɛ」に後続するものは全て名詞であるということがこの意味用法の統語的な特徴として挙げられる。また、観察した用例では、「tháŋnán」(全て)、「tempaimòt」(たくさん)、「tháŋmòt」(全部、全員)などという語と共起する場合がほとんどである。

3.5. 限定

意味：Xに限ってPである。Xという範囲を定め、それ以外のモノ・コトについてPではない。

統語的な特徴：動詞 1 + tɛɛ + 名詞（句）

(27) 〈マーナは毎朝いつもいろいろなものを食べるという文脈で〉

mũacháawníi maanáʔ kin tɛɛ khanǒmpaŋ
今朝 マーナ 食べる 限定 パン
(今朝、マーナはパンだけ食べた。)

(27) は「tɛɛ」の後に名詞が置かれており、「X=パン」に限って「P=食べた」あるいは、「X=パン」という範囲を定め、それ以外の物を食べなかったという意味をとらえることができる。TNC コーパスから収集した用例では、「lũa」(残る)や「mii」(ある/いる)という存在を表す動詞が「tɛɛ」とともに共起することが多く観察されている。

(28) สามในสี่โหวดให้คนสวยผมหยักศกคนแรก มีแต่หนุ่มแว่นคนเดียวเท่านั้นที่โหวดให้ฝ่าย [PRNV079]
(髪をカールしている美人が3/4の投票者に投票された。ファイに投票したのはメガネの青年だけだった。)

(29) ญพุด แล้วหันมามองฝ่าย เพราะจนถึงตอนนี้ก็เหลือแต่ ฝ่ายคนเดียวที่ยังไม่พูดอะไร [PRNV079]
(ヌグが言って、ファイの方に顔を向けた。なぜなら、まだ何も言っていないのはファイだけだったからだ。)

(30) อยากหาอะไรขว้างป้าดวงก็หายาก ของบนรถที่จะทำให้แกเจ็บได้มีแค่กระสอบข้าวสารเท่านั้น ยกไม่ไหว [PRNV087]
(ドゥアン婆さんに投げつける物がなかなか見つからない。車の中の物で彼女に痛みを感じさせられるのは米がいっぱい入っている麻袋だけだった。しかし、持ち上げられない。)

ただし、「tɛɛ」が存在を表す動詞「lũa」(残る)や「mii」(ある/いる)とともに用いられる場合、「限定」を表すというより「多数性」を表すものとして解釈する傾向がある。しかし、「tɛɛ」の後に位置する名詞(句)が数量(khon diaw (1人), hũa lêm (5冊)など)や限定を表す副詞(thâwnán (ただ))を伴って用いられると、「限定」という意味に解釈されやすくなる。

以上、タイ語における限定表現「tɛɛ」の意味および用法について分析を行ない、各々の意味・用法の統語的な特徴およびその用いられる文脈で特徴的なものについても明らかにした。その分析結果を次のように表形式にまとめ直す。

表1 「tɛɛ」における各意味・用法の特徴

	統語的な特徴	特徴的な文脈
4.1 唯一の方法	「dâi + tɛɛ + 動詞」	動詞1には必ず「dâi」を用い、他の可能を表す動詞を使用不可
4.2 反復性	「aw/khɔɔy + tɛɛ + 動詞」	動詞1には時間の幅がある動詞でなければならない
4.3 持続性	「mua + tɛɛ + 名詞」	持続性を表す事態が原因で、望ましくない結果が導かれる
4.4 多数性	「動詞 + tɛɛ + 名詞」	「thájnán」(全て), 「tempaimòt」(たくさん), 「thájmòt」(全部, 全員) などという語と共起する
4.5 限定	「動詞 + tɛɛ + 名詞」	名詞の後に数量や限定を表す副詞と共起する

4. まとめ

本稿では、タイ語における限定表現「tɛɛ」の意味・用法について考察を行った。「tɛɛ」の表す意味には、「唯一の方法」、「反復性」、「持続性」、「多数性」、そして「限定」が観察された。今後、タイ語の他の限定表現（「khêɛ」「phiaŋ」など）との共通点や相違点を明らかにし、比較対照を行う予定である。

また、本稿において扱った用例数がまだ少ないため、さらに用例数を増やし、分析することが必要であると思われる。そして、タイ語の他の限定表現の意味・用法を明らかにし、日本語の限定を表すとりたて助詞の「だけ」「しか」「ばかり」との対照分析を行なうことを今後の課題としたい。

参考文献

- モンコンチャイ・アッカラチャイ (2011) 「タイ語における限定表現『khêɛ』の意味・用法に関する考察—日本語との対照を目指して—」『コーパスに基づく言語学教育研究報告』6, pp. 279-287.
- Panika Surarungsikul (2008) 「限定を表す日本語のとりたて詞とタイ語の限定表現の対照研究」『国際交流基金バンコク日本文化センター 日本語教育紀要』5, pp. 17-26.
- Shoichi Iwasaki and Preeya Ingkaphirom (2005) *A Reference Grammar of Thai*. Cambridge University Press.
- Wirote Aroonmanakun (2007) Creating the Thai National Corpus. *Journal of Humanities, Chulalongkorn University, Special issue No.13: Trends in Thai Linguistics*, 4-17.